

量子連続測定における混合状態とそのエントロピーの収束条件

布田 徹 北海道大学大学院 理学院 数学専攻

1 混合状態に対する連続測定

\mathcal{H} を量子系 S の状態の可分な複素ヒルベルト空間であるとし、 \mathcal{H} の次元を $d(\leq \infty)$ とする。 $\mathfrak{B}(\mathcal{H}), \mathfrak{C}(\mathcal{H}), \mathfrak{T}(\mathcal{H}), \mathfrak{S}(\mathcal{H})$ をそれぞれ \mathcal{H} 上の有界作用素, コンパクト作用素, トレースクラス作用素, 密度作用素の全体からなる集合とする。 トレースノルムを $\|\cdot\|_1 := \text{Tr}|\cdot|$ とする。 量子系 S のハミルトニアンが自己共役作用素 H で表されているとし、 $D(H)$ で H の定義域を表すことにする。

1. (ユニタリチャンネル) \mathcal{H} 上のユニタリ作用素 U に対して、

$$\mathcal{E}_U \rho := U \rho U^*, \quad \forall \rho \in \mathfrak{S}(\mathcal{H}).$$

特に、 $\mathcal{E}_t := \mathcal{E}_{e^{-itH}}$ と略記。

2. (射影チャンネル) $\mathfrak{P} := \{P_n\}_n$ を $P_m \perp P_n (m \neq n), I = \sum_n P_n$ を満たす \mathcal{H} 上の射影作用素の族とする。 このとき、

$$\mathcal{E}_{\mathfrak{P}} \rho := \sum_n P_n \rho P_n, \quad \forall \rho \in \mathfrak{S}(\mathcal{H}).$$

量子系 S の状態 $\rho \in \mathfrak{S}(\mathcal{H})$ を任意の一つ固定する。

$$\rho = \sum_{n=1}^d \lambda_n |\Psi_n\rangle \langle \Psi_n| \quad (1.1)$$

を ρ のシャッテン分解 (の一つ) とする。 ただし、 λ_n は多重度も込めて考え、 $\{\Psi_n\}_{n=1}^d$ が \mathcal{H} の完全正規直交系 (CONS) となるようにしておく。

任意に時刻 $\tau > 0$ を一つ固定する。 分解 (1.1) に対し、 $\{\Psi_n(t)\}_{n=1}^d$ を $\Psi_n(0) = \Psi_n (1 \leq \forall n \leq d)$ を満たす、時刻パラメータ $t \in [0, \tau]$ を持つ \mathcal{H} の CONS であるとし、 $\mathfrak{P}(t) := \{|\Psi_n(t)\rangle \langle \Psi_n(t)|\}_n$ とする。

Δ を区間 $[0, \tau]$ の任意の分割で $\Delta: 0 = t_0 < t_1 < \dots < t_{N-1} < t_N = \tau$ であるものとし、 $k = 1, \dots, N$ に対して $\Delta_k := t_k - t_{k-1}, |\Delta| := \max_{1 \leq k \leq N} \Delta_k$ とおく。 $\rho_{\Delta}(\tau) \in \mathfrak{S}(\mathcal{H})$ を次のように定義する：

$$\rho_{\Delta}(\tau) := \mathcal{E}_{\mathfrak{P}(t_N)} \circ \mathcal{E}_{\Delta_N} \circ \mathcal{E}_{\mathfrak{P}(t_{N-1})} \circ \mathcal{E}_{\Delta_{N-1}} \circ \dots \circ \mathcal{E}_{\mathfrak{P}(t_1)} \circ \mathcal{E}_{\Delta_1} \rho. \quad (1.2)$$

$\rho_{\Delta}(\tau)$ は、物理的には Δ の各分点で、それぞれ射影作用素の族 $\mathfrak{P}(t_1), \dots, \mathfrak{P}(t_N)$ による量子測定を行ったときの終状態である。

直接計算により、次式がわかる：

$$\rho_{\Delta}(\tau) = \sum_k \lambda_{\Delta, k} |\Psi_k(\tau)\rangle \langle \Psi_k(\tau)|,$$

$$\lambda_{\Delta, k} := \sum_{k_0, \dots, k_{N-1}} \lambda_{k_0} \prod_{j=1}^N |\langle \Psi_{k_j}(t_j), e^{-i\Delta_j H} \Psi_{k_{j-1}}(t_{j-1}) \rangle|^2. \quad (k_N = k).$$

1.1 各点収束

定理 1.1 ある $k \in \mathbb{N}$ が存在し、以下の条件を満たすと仮定する：

$$\forall \lambda \in [0, \tau], \quad \Psi_k(\lambda) \in D(H), \quad (1.3)$$

$$\xi_k := \sup_{0 \leq \lambda \leq t} \|H \Psi_k(\lambda)\| < \infty, \quad (1.4)$$

$$\eta_k := \sup_{\substack{\lambda, \nu \in [0, t] \\ \lambda \neq \nu}} \frac{\|\Psi_k(\lambda) - \Psi_k(\nu)\|}{|\lambda - \nu|} < \infty, \quad (1.5)$$

$$\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} \sum_{j=1}^N \text{Re} \langle \Psi_k(t_j) - \Psi_k(t_{j-1}), \Psi_k(t_{j-1}) \rangle = 0. \quad (1.6)$$

このとき、 $\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} \lambda_{\Delta, k} = \lambda_k$ が成り立つ。

系 1.2 ある $k \in \mathbb{N}$ が存在し、以下の条件を満たすとすると：

$$\Psi_k(\cdot) : [0, \tau] \rightarrow \mathcal{H} \text{ は強微分可能}, \quad (1.7)$$

$$\forall \lambda \in [0, \tau], \quad \Psi_k(\lambda) \in D(H), \quad (1.8)$$

$$\xi_k < \infty, \quad (1.9)$$

$$\sup_{0 \leq \lambda \leq \tau} \|\Psi_k'(\lambda)\| < \infty. \quad (1.10)$$

このとき、 $\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} \lambda_{\Delta, k} = \lambda_k$ が成り立つ。

1.2 トレースノルム収束

分解 (1.1) で与えられる ρ に対して、 $\rho(t)$ を次のように定義する：

$$\rho(t) := \sum_n \lambda_n |\Psi_n(t)\rangle \langle \Psi_n(t)|, \quad \forall t \in [0, \tau]. \quad (1.11)$$

定理 1.3 $\lambda_k > 0$ なる任意の $k \in \mathbb{N}$ に対して定理 1.1 の仮定 (1.3)–(1.6) が満たされているとする。 このとき、次式が成り立つ：

$$\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} \|\rho_{\Delta}(\tau) - \rho(\tau)\|_1 = 0. \quad (1.12)$$

系 1.4 $\lambda_k > 0$ なる任意の $k \in \mathbb{N}$ に対して系 1.2 の仮定 (1.7)–(1.10) が満たされているとすると、 $\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} \|\rho_{\Delta}(\tau) - \rho(\tau)\|_1 = 0$ 。

$d < \infty$ の場合、任意の初期状態に対して測定の方法を工夫することにより、任意のユニタリチャンネルを連続測定によって近似できる。

1.3 量子ゼノン効果 (QZE) への応用

$\lambda_k > 0$ なる任意の $k \in \mathbb{N}$ に対して $\Psi_k \in D(H)$ かつ $\Psi_k(\lambda) = \Psi_k (\forall \lambda \in [0, \tau])$ であるとする、定理 1.3 により $\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} \|\rho_{\Delta}(\tau) - \rho(\tau)\|_1 = 0$ 。

2 フォン・ノイマン (v.N.) エントロピーの収束

関数 $\varphi : [0, \infty) \rightarrow [0, \infty)$ を $\varphi(\lambda) := -\lambda \log \lambda$ により定義する。 ただし、 $\varphi(0) := 0$ 。 $S(\rho)$ を $\rho \in \mathfrak{S}$ に対する v.N. エントロピーとする。

$d < \infty$ のとき、v.N. エントロピーはトレースノルムに対して連続であるが、 $d = \infty$ のとき、一般に v.N. エントロピーはトレースノルムに関して連続とは限らない。以下では、 $\dim \mathcal{H} = \infty$ であるとする。

定理 2.1 任意の $k \in \mathbb{N}$ に対して (1.3)–(1.5) が成り立ち、 $\lambda_k > 0$ なる任意の $k \in \mathbb{N}$ に対して (1.6) が成り立つと仮定。 さらに、次を仮定：

$$\xi_k \rightarrow 0, \quad \eta_k \rightarrow 0 (k \rightarrow \infty), \quad (2.1)$$

$$S(\rho) < \infty, \quad \sum_k \varphi(\xi_k^2) < \infty, \quad \sum_k \varphi(\eta_k^2) < \infty. \quad (2.2)$$

このとき、 $\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} S(\rho_{\Delta}(\tau)) = S(\rho(\tau)) = S(\rho)$ が成り立つ。

注意 2.2 $H \in \mathfrak{B}(\mathcal{H}), \xi_k \rightarrow 0, \sum_k \varphi(\xi_k^2) < \infty \Rightarrow \varphi(H^2) \in \mathfrak{T}(\mathcal{H})$ 。

例 2.3 物理量 A が H に関する保存量であるとし、かつ $A, H \in \mathfrak{C}(\mathcal{H})$ であるとする。 さらに、次の条件が満たされているとする：

$$\forall k \in \mathbb{N}, \forall \lambda \in [0, \tau], \Psi_k(\lambda) = e^{-i\lambda A} \Psi_k, \quad S(\rho) < \infty,$$

$$\sum_k \varphi(\|H \Psi_k\|^2) < \infty, \quad \sum_k \varphi(\|A \Psi_k\|^2) < \infty.$$

このとき、定理 2.1 の仮定を満たすので、 $\lim_{|\Delta| \rightarrow 0} S(\rho_{\Delta}(\tau)) = S(\rho)$ 。

$A = 0$ のとき、QZE に対する v.N. エントロピーの収束条件を得る：

$$H \in \mathfrak{C}(\mathcal{H}), \Psi_k(\lambda) = \Psi_k (\forall k \in \mathbb{N}, \forall \lambda \in [0, \tau]), \left. \begin{array}{l} S(\rho) < \infty, \sum_k \varphi(\|H \Psi_k\|^2) < \infty \end{array} \right\} \Rightarrow \lim_{|\Delta| \rightarrow 0} S(\rho_{\Delta}(\tau)) = S(\rho).$$

参考文献

- [1] A. Arai and T. Fuda, Some mathematical aspects of quantum Zeno effect, *Lett. Math. Phys.* **100** (2012), 245–260.
- [2] T. Fuda, Convergence Conditions of Mixed States and their von Neumann Entropy in Continuous Quantum Measurements, arXiv:1312.2028.
- [3] E. H. Lieb and M. B. Ruskai, Proof of the strong subadditivity of quantum-mechanical entropy (with an appendix by B. Simon), *J. Math. Phys.* **14** (1973), 1938–1941.
- [4] B. Misra and E. C. G. Sudarshan, The Zeno's paradox in quantum theory, *J. Math. Phys.* **18** (1977), 756–763.